



日本共産党品川区議会議員

# 週刊 みやざき克俊

2010年9月5日 No.719

事務所:品川区豊町6-2-1 Tel.3786-6674



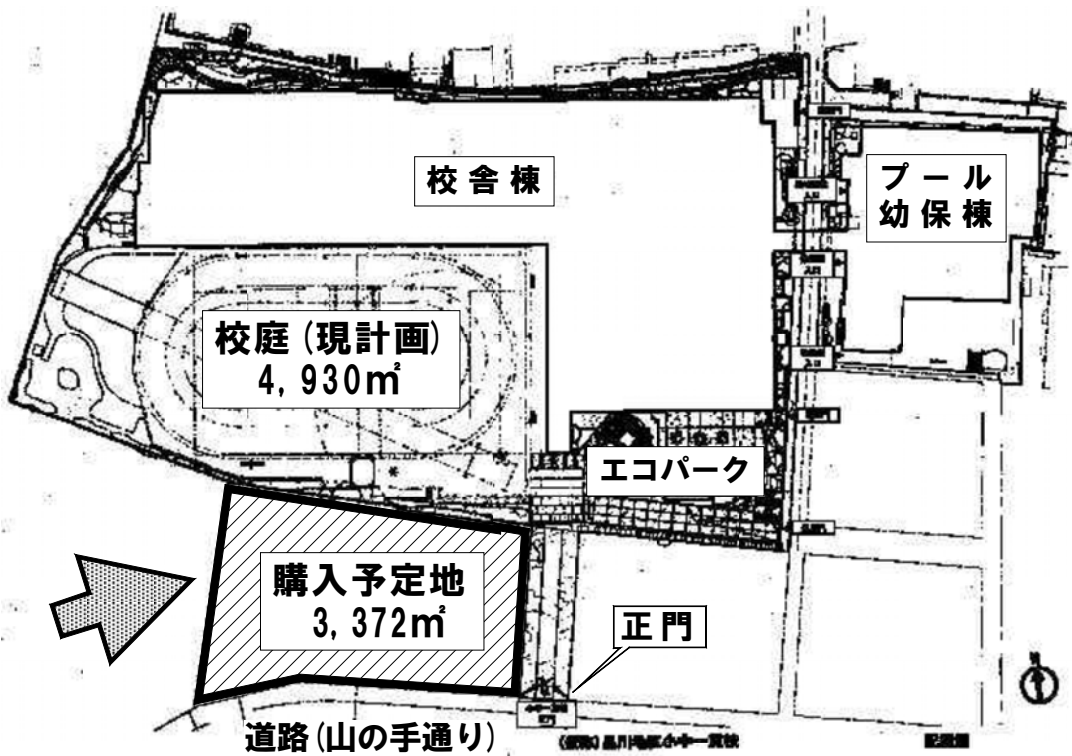
共産党 品川

検索

品川地区  
一貫校

## 狭い校庭が改善されます

### 「広くして」の声受け、隣地購入へ



品川小と城南中の品川地区小中一貫校。来年度開設で工事中ですが、品川区は校庭拡張へ隣地購入を明らかにしました。現行計画では校庭は品川小2622㎡、城南中2950㎡の合計5572㎡が一貫校になると4930㎡へと狭くなる予定でした。

品川地区一貫校の校庭は隣地購入により当初計画4930㎡から8302㎡になります。

区議会総務委員会での区の説明によると、父母などから品川地区小中一貫校のグラウンドにするため土地購入の強い要望が寄せられていたことを受けて、区が製薬会社と交渉してきたとのこと。先般、製薬会社側から土地を売却する方向性が固まったと返事をもらったので、できるだけ早く土地を入手するため金額等の具体的な実務の交渉に入っていくといっています。

現行計画は校庭に100㎡の直線がギリギリできる程度。「広くしてほしい」という願いは当然です。父母たちの声が「狭い校庭」を改善させました。

## 一貫校の校庭面積

# ひとり当たり3倍の差 こんなに違うの…!?

品川地区一貫校は隣地購入で「狭い校庭」を改善できませんが、校庭の面積比較で一人当たり3倍も差が生じる学校もあります。狭い校庭はそのままガマンするのか、これから建設するところは改善できるのでしょうか。

品川区は小中一貫校をこれまで日野学園、伊藤学園、八潮学園に続き、今年度は荏原平塚学園を開設。さらに、来年度に品川地区(品川小・城南中)、平成25年度には荏原東地区(杜松小・大間窪小・荏原三中・荏原四中)の建設計画をすすめています。しかし、小中一貫校には、1年生から9年生(中学3年)まで一つの学校に押し込める「マンモス校」「ゆえのさまざまな問題が出てきていますが、そうした問題の一つに「狭い校庭」があります。

ある小中一貫校では、父母から、小中学生が一堂に参加する運動会で「時間が長くなったのに出番は減少。従来の種目が少なくなった」、「校庭が狭く、保護者の多くは2階、3階でベランダ越しに応援。お弁当も、子どもと一緒に食べられなくなつた」などの苦情が寄せられています。昨年、品川の教育改革を検証する本が相次いで出版されました。そのなかで、教育委員会事務局も参加した品川区教育政策研究会発行の「検証・教育改革」

## 一貫校校庭の広さ比較(概算)

<b>日野学園の校庭</b>	4,500㎡	現在の児童・生徒数 963人 (一人当たり 4.7㎡)
<b>伊藤学園の校庭</b>	4,700㎡	現在の児童・生徒数 1,221人 (一人当たり 3.8㎡)
<b>八潮学園の校庭</b>	5,080㎡	現在の児童・生徒数 748人 (一人当たり 6.8㎡)
<b>荏原平塚学園の校庭</b>	5,000㎡	現在の児童・生徒数 511人 (一人当たり 9.8㎡)
<b>品川地区(平成23年開校)</b>	4,930㎡ → 8,300㎡	現在、品川小 396人 城南中 281人 (一人当たり 12.3㎡)
<b>荏原東地区(平成25年開校)</b>	6,000㎡	現在、杜松小 102人 (一人当たり 6.1㎡) 大間窪小 443人 荏原三中 248人 荏原四中 197人

※品川地区と荏原東地区は現在のそれぞれの学校の児童・生徒数。中学校生徒数は昨年度の数。



一人当たり面積がこんなに違っていいの…?

でも、小中一貫校について、運動会で時間がかかりすぎる、出番が少ないなど、問題が多いと指摘しています。これが「校庭の狭さ」に起因するかどうか分析はしていませんが、校庭の広さに3倍も差が生じることになり、しかも、全学年一斉の活動

に問題が生じているというので、すから、校庭の広さも検討が必要ではないでしょうか。

無料  
弁護士  
が対応

**法律相談**は  
9月17日(金) Pm 6:30  
みやざき克俊事務所  
生活相談は随時受付